

令和4年度 県立鹿島特別支援学校自己評価表

目指す学校像	○元気に楽しく学べる学校 ○保護者、地域、関係機関と共に歩む学校 ○一人一人がよさを発揮できる学校		
昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達成 状況
○ 学校研究において「主体的・対話的で深い学び」やICTによる効果的な授業の在り方について専門家（大学教授等）の研修会を実施するとともに、タブレット端末による授業づくりの実践を重ねることで教職員の授業力の向上を図ることができた。また、若手研修や中堅研修等の教員の授業研究をとおして児童生徒一人一人の個に応じた指導について深めることができた。加えて、学年それぞれにSDGsの視点を考えた教育活動を行うことができた。課題として教員の年齢や経験年数や役割等に応じた研修や効果的なチームティーチングの在り方について今後も考えていく必要がある。 ○ 先の見えない新型コロナ禍の中で文化や芸術、スポーツ活動に触れる機会や校外での体験活動、学校間の交流など大幅に見直しを迫られることとなったが、感染症対策を行いながら教員同士アイディアを出し合い可能な範囲で様々な教育活動を実施することができた。また、保健安全指導を重視するとともに、医療的ケアや食物アレルギーの対策等係を中心に行い、大きな事故等なく教育活動を行うことができた。課題として新型コロナ対策を社会情勢や国や県の対応策等をすばやく関知し、本校としての対応策を今後も打ち出すことが必要である。 ○ 教職員の清掃活動や環境整備、児童生徒の清掃等によりきれいな学校環境を維持することができた。スクールバスの運行に関して各号車担当職員が乗務員や各担任と連携を密にしながら情報を共有し、安全でスムーズな運行ができた。今後も安全な運行の確保に努めるとともに災害時緊急避難場所等の対応について充実を図る。進路指導に関しては、事業所の合同説明会等をおして全校の保護者に進路に関する情報を発信することができた。児童生徒の居住地や実態に応じた個々の進路指導について更に深めていきたい。本校は、各関係機関とのつながりが深く児童生徒の様々な分野で連携していく体制がある。今後も本校の児童生徒の様々な教育活動について地域と連携しながら協力体制の強化を図っていきたい。	一人一人の学びを大切にする指導の充実	①育成を目指す資質・能力を踏まえた系統性のある指導内容の設定 ②何ができるようになるのかを明確にした「わかる・できた！」が実感できる授業実践 ③主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善とICT機器活用の推進 ④一人一人に応じたキャリア教育の推進	B
	豊かな心、健やかな体を育む教育の充実	＜豊かな心の育成＞ ⑤自分らしいあいさつの実践や気持ちの表出を促す指導の実践 ⑥自己肯定感、自己理解、自己実現を促す体験活動の充実 ⑦多様な見方や考え方に触れる道徳教育の推進 ⑧作品展・作品応募への積極的参加等、文化・芸術活動に触れる機会の設定 ⑨児童生徒理解と人権を考慮した指導の徹底 ＜健康・体力の維持増進＞ ⑩安全・安心な環境整備と感染症対策の徹底 ⑪基本的な生活習慣の確立に向けた指導の充実 ⑫保健安全指導の充実と医療的ケアの安全な実施 ⑬食に関する指導の充実と食物アレルギーへの適切な対応 ⑭多様な避難訓練等の実施と危機管理体制の見直し ⑮体育及び体育的行事の工夫	B
	地域と共に歩む学校づくりの推進	＜センター的役割の強化＞ ⑯保育園、幼稚園、小・中学校、高等学校への支援の充実（情報提供及び相談等） ⑰保護者や児童生徒、教職員も含めた校内支援体制の充実 ＜交流及び共同学習の充実＞ ⑱学校間・居住地校・地域交流の積極的な実施（コロナ禍における工夫した取組） ＜PTAや関係機関との連携の充実＞ ⑲PTAや5市等の関係機関との連携とPTA活動の充実 ＜地域への理解推進とHP等による情報発信＞ ⑳SDGsの視点を踏まえた取り組みの推進 ㉑授業公開・学校公開、作品展・販売機会等による地域への理解推進とHP等による情報発信（コロナ禍における工夫した取組）	B

※評価基準A：よい（達成できた）、B：ほぼよい（ある程度達成できた）、C：やや不十分（一部改善の余地がある）、D：不十分（改善が必要である。）

令和4年度 県立鹿島特別支援学校 自己評価（校務分掌）

評価項目		具体的目標	具 体 的 方 策	重点目標との関連	評価	次年度への主な課題
教務部	企画	○ 児童生徒の実態に適した教育課程の編成、教育的ニーズに応じた教育内容の充実を図る。	・ 毎月末の授業時数報告の確認から、課題を把握し、円滑な教育課程（授業）の実施ができるように行事や施設利用、教材教具利用の調整を図る。 ・ 校務分掌部、各教科領域等、各学部と連携を図りながら、系統性のある指導内容（行事、活動内容等を含む）の設定・ICT機器活用の促進・キャリア教育の推進をととして、教育的ニーズに応じた教育内容の充実を図る。	①②③④⑥ ⑦⑧⑨	A	B ・ 学習指導要領に基づいた教育課程の実施ができているか点検し、教育課程の見直し、検討を行う必要がある。 ・ 今年度に引き続き各教科等の年間指導計画の見直しを行うこと、各部における行事等の目的、各部の学年の系統性や障害の程度による指導内容等の見直しを行う必要がある。
		○ 安心安全な学習環境の整備に努め、元気に楽しく学べる学校にする。	・ 定期的に校内施設の確認を行い、全職員に対し、環境整備（整理・整頓・清潔・清掃・掲示）の充実を図るよう働きかけるとともに、保健部と連携して感染症対策を徹底する。	⑩	B	
		○ 学校公開や学校見学会、保護者会等を通して本校の教育活動への理解啓発を図る。	・ 各学部や教育支援部と連携と図り、学校公開や学校見学会、保護者会において理解と信頼を得られるような参観（公開）授業を計画する。また、地域においてセンター的役割を果たす。	⑬⑭⑮⑯⑰	A	
	庶務	○ 出席簿、会計簿、指導要録などの諸帳簿の適切な記入や管理に努める。	・ 学期末や学年末等に諸帳簿の確認をし、適切な管理に努める。	⑩	A	A ・ 口座振替と現金での返金をスムーズに行うために、年度末の諸帳簿の確認のためのスケジュールを再検討する必要がある。 ・ 出席の有無などを記入したものを使っているが、長期欠席児童生徒の日数の集計に、十分対応できない状況である。欠席理由を分かりやすくするため、今の形式で出席を付ける欄を空欄にしたものを使うようにするなど、より改善、充実させるようにする。 ・ 会計処理は手続きが多く分かりにくい部分があるため、今後も事務と連携し進めていくようにする。
			・ 出席簿の電子化ファイルを充実させることにより、各教員が正確かつ迅速な事務処理ができるようにする。	⑩	A	
			・ 会計簿マニュアルを改定、充実することにより、各教員、学級、学年において、正確迅速な処理ができるようなシステムの構築を目指す。	⑩	B	
	現職人権	○ 研究会（特教研を除く）等の案内を教職員に知らせ、参加を促し、研修意欲を高める。	・ 大職員室に案内を掲示し、職員に参加を促す。	①②③	B	B ・ 今後とも継続的に進めていく。 ・ 示範授業については、新採研担当者と連携して計画的に実施することができた。次年度も連携・協力して進めていくようにする。 ・ 次年度はレポートや略案等の添削を係で分担できるようにしていく。 ・ 新型コロナウイルス感染症対策を考慮した研修会等を企画運営できるように進めていく。 ・ 今後とも継続的に進めていく。
		○ 中堅教諭等の研修について、管理職と研修の係と連携し、計画的に実施するとともに、該当者の専門性の向上に努める。	・ 6年経験者の研修を若手教員の示範授業へと計画及び実践することで、授業の振り返りを行い、自己の課題を明確化する。	①②③	A	
			・ 校内や校外における研修を計画し、個々の専門性を高める。	①②③	B	
		○ 教職員対象の人権教育研修会を企画し、職員の人権意識を深める。	・ 夏季休業中に人権研修を計画し、人権に関する知識と理解を深める。	⑥⑦⑧	A	
			・ 職員向けのアンケートを実施し、今後の研修ニーズに応えられるようにする。	⑥⑦⑧	A	
	教科書図書	○ 教科書関係事務を適切かつ正確に遂行する。	・ 教科書関係事務等について、学部ごとの係で分担することで複数の目で確認し効率よく進める。 ・ 必要に応じて各学部にアンケートや聞き取り等を実施し、図書の充実を図る。 ・ 教科用図書選定協議会や教科用図書選定委員会、教科用図書選定調査会をもつことで、児童生徒にとってよりよい教科用図書を選択する。	① ①⑨	B A	A ・ 教科用図書のアンケートを実施したが、予算の関係上購入できなかった図書もあるので、次年度以降、図書の充実を図っていく。 ・ 教科用図書選定協議会、委員会、調査委員会などを通して、図書を見比べながらよりよい教科用図書を選定することができた。 ・ 係で分担して整理整頓や図書の紹介などを行った。壁面の図書紹介コーナーを通して図書室の利用頻度が増えるようにしていく。
		○ 図書室の環境の清掃や、整理整頓を行う。	・ 環境整備係や各学部の図書委員会と連携して業務に当たる。長期休暇などを利用し、図書の修理や廃棄、図書室の清掃や整理整頓を行うことで誰もが利用しやすい図書室に改善する。	①⑨	A	
		○ 新規採用教員研修について教職員の理解を図り、OJTの機能を活かした研修の充実を図る。	・ 新規採用教員研修に係る校内研修計画に基づき、計画的に研修が進められるように各学部、学年・学級、関係職員と連携を図りながら研修を実施する。	①②③④⑤ ⑥⑦⑨⑩⑪ ⑰	A	
	新規採用教員研修	○ 年間を通して校内研修を系統的かつ計画的に実施することにより、新規採用教員の指導力を高める。	・ 基礎的・基本的な資質能力の向上（初任者）、授業力の育成（2年次）、課題対応力の育成（3年次）を図ることができるよう研修計画を立てるなど、校内研修の充実を努める。	①②③④⑤ ⑥⑦⑨⑩⑪ ⑰	A	A ・ 各教科等の指導の基本や研究授業の在り方について、学年主任等に対し説明の機会を設けることで、共通理解を図り、新規採用教員の指導にあたることができるようにする。 ・ 今年度同様、拠点校指導教員及び単独校指導教員を中心とした計画的な研修に努める。 ・ 各年次研の研修対象となる教科等以外の授業参観も積極的に行う。
			・ 新規採用教員研修担当者を中心とした授業参観等を行い、児童生徒の実態把握、授業の計画、実施、評価、改善という授業づくりの各過程やプロセス全体等について指導助言をする。	①②③④⑤ ⑥⑦⑨⑩⑪ ⑰	A	
			・ 基礎的・基本的な資質能力の向上（初任者）、授業力の育成（2年次）、課題対応力の育成（3年次）を図ることができるよう研修計画を立てるなど、校内研修の充実を努める。	①②③④⑤ ⑥⑦⑨⑩⑪ ⑰	A	
	保険	○ 児童生徒及び保護者に関係する学校を通して加入する保険業務を滞りなく遂行する。	・ AIG保険、インターンシップ保険、i-Pad保険、運動会・体育祭の保護者用保険への加入の手続き、加入者一覧表の作成などを役割分担して行う。	⑩	A	A ・ 次年度は、今年の実践を生かした役割分担をしていく。 ・ 次年度も加入の漏れや保険利用の漏れがないようにする。
			・ 保険会社との連絡を密にして、加入の漏れや保険利用の漏れがないようにする。	⑩	A	

令和4年度 県立鹿島特別支援学校 自己評価（校務分掌）

評価項目		具体的目標	具 体 的 方 策	重点目標との関連	評価		次年度への主な課題
情報部	情報・視聴覚教育	○引き続き定期的な情報の発信や、見やすいホームページレイアウト等に取り組む。	・Micro Soft Office365のアプリケーションの一つのSwayを使用し、視覚的に魅力のあるホームページレイアウトの作成を行う。	⑳	B	A	・Swayは使用しなかったが、バナーなどを作成し、ホームページレイアウトをより見やすく改善した。次年度はSwayの使用も検討していく。
		○ポータルサイトやクラウドの共有フォルダの普及をすべく、情報の発信や、疑問点解消に取り組む。	・現状、年度切り替えに伴い、新しいクラウドシステムに慣れていない教職員が多いため、現共有サーバの容量節約のためにも都度情報発信や、疑問点の解消を行う。	①③	A		・新任教職員に対し、スムーズに本校の仕組みに慣れることができるよう、分かりやすいマニュアル整備に努める。
		○登録アドレスの更新等の業務を情報・視聴覚教育の全員ができるようにする。	・システムの活用については限られたメンバーになってしまっているため、非常時を考慮して情報・視聴覚教育の全員ができるようにする。	⑭⑲	A		・年度始めに役割分担を行い、新任教職員や新・転入の児童生徒も早急に登録できるよう努める。係内の担当外の業務について、研修を適宜行う。
	ICT推進	○アプリケーションを含めたタブレット端末の管理、PCの管理をする。	・児童生徒用タブレット端末、教師用タブレット端末のアプリや環境の整備を行い、円滑に活用できるようにする。 ・情報機器の管理を行い、情報機器の積極的な活用ができる環境を整える。	③	A	A	・PCのOSアップデートを少しずつ進めていき、windows10のサポート期限(2025.10)までにwindows11にアップデートを完了する。
		○タブレット端末による指導方法の研修、情報モラルに関する研修をする。	・タブレット端末による指導法の情報提供や研修を実施する。 情報モラルへの意識を高めるための情報提供や研修を実施する。	③	A		・タブレット端末の活用方法について校内研修を行った。次年度な更に計画的にICTに関する研修会ができるようにする。
		○GIGAスクール構想における取り組みへの対応。	・情報教育担当者と連携し、各学部、各学年で情報共有をする。 ・新規事業への対応、職員への周知を行う。	③	B		・授業や集会でICT機器の効果的な活用を進めるため、Wi-Fi環境や機器の整備をさらに計画的に進めていく。
危機管理部	防災・安全	○年間を通して、防災教育の充実を図る。	・避難訓練の実施と振り返りを繰り返すことで、より児童・生徒の実態に応じた防災訓練を計画・実施する。また、新型コロナウイルス対策を踏まえた避難場所や訓練を検討し、実施する。	⑭	B	B	・避難訓練に付随し、訓練の事前事後学習として自然災害についての教育を実施することができた。次年度も引き続き防災教育の充実を図り、避難訓練については、反省を生かした内容、想定での訓練の実施を検討する。
		○防災に対する教職員、児童生徒の意識向上を図る。	・様々な災害を想定した避難訓練を実施する上で、避難経路等について児童・生徒や教職員が自分で判断できるような場面を設定する。	⑭	A		・シェイクアウト訓練も含め、毎月避難訓練を実施することで、児童生徒及び教職員の防災危機意識と、災害に対する対応能力を高めることができた。次年度も継続していく。
		○備蓄品の管理、整理、補充をする。	・事務や栄養教諭と連携し、校内の備蓄品(食料品、資機材)を整理し、場所や賞味期限等をリストアップすることで、過不足が無いように配慮したり、必要に応じて購入をしたりする。また、発電機の試運転を定期的に行い、劣化や故障を防げるようにする。	⑭	B		・備蓄品の整理と確認を行い、必要な備蓄品の購入申請をすることはできた。次年度は、食糧備蓄品の期限が近いものが多いので、確認・管理を行い、補充を図っていく。
	環境整備	○学校全体で環境美化に取り組む。	・安全点検と職員清掃を実施し、校内の整理・整頓・清潔・習慣化を推進する。 ・安全点検と職員清掃の内容について再確認を行い、効率化を図る。	⑩	A	A	・安全点検、職員清掃を予定通り行うことができた。コロナ禍でできていなかったグラウンドの整備やマット洗いも行うことができた。次年度に向けて、点検内容、清掃区域について確認していく。
		○随時、校内の安全点検を実施し、施設設備の安全管理に勤める。	・教室内のカーテン洗い、扇風機、エアコンフィルター清掃、モップのクリーニング等を行う。	⑩	A		・カーテン洗い、扇風機、モップのクリーニングについては予定通り行うことができた。エアコンフィルター清掃については、設置場所が高所な教室のみ業者に依頼し、その他は職員で行い、環境整備に努めることができた。
		○清掃用具の点検や清掃の充実を図る。	・清掃に必要な用具類を充実させる。	⑩	A		・その都度、不足分について購入し欠品がないように努めることができた。
			・年度末には、チェックリストに沿って点検や清掃を行えるようにする。 ・新年度に必要な机や椅子の確認を行いワックスがけの調整を行い実施する。	⑩	B		・次年度に向けて机、椅子の調査を行うことができた。古く危険なものから交換するように働きかけていく。ワックスがけについては、調整し実施していく。

令和4年度 県立鹿島特別支援学校 自己評価（校務分掌）

評価項目		具体的目標	具 体 的 方 策	重点目標との関連	評価		次年度への主な課題
学習支援部	教科・領域	○ 授業に関する情報交換や教材教具の整理をして、学習内容の充実を図る。	・ 各係の主導において、教材・教具の保管場所の把握・整理を行う。	①⑦	A	B	・ 各係や各学部内で教材・教具を共有し、学習内容の充実を図ることができた。
			・ 各係で授業で使用した教材をまとめ、次の授業に生かせるように整理を行う。	①③	A		・ 教材室を移動し、各係で教材・教具を整理することで、各教科ごとに分かりやすく、使いやすい教材室に整えることができた。
		○ 学習指導要領に沿った形で年間指導計画を作成し、授業づくりが行うことができるようにする。	・ 発達段階や学習内容の系統性を調整しながら、年間指導計画の作成・検討を行う。	①②③④⑥⑨	B		・ 年間指導計画の見直しを行うことができた。次年度以降も各係を中心に連携を図りながら、学校全体を通して、児童生徒の実態に合った、系統性のある指導内容を検討していく必要がある。
	特教研	○ 特別支援教育における今日の動向を踏まえ、本校における教職員のニーズに合わせた研修の充実を図る。	・ 教科・領域係や特別支援教育充実事業、特教研等の各種研修会の補助をするとともに、これらの研修の成果を伝える。	①②③	A	A	・ 特教研制度変更に伴い、変更後の在り方を教職員に周知し、来年度以降もスムーズに運営できるようにする。
		○ 特教研等の校外職員を対象としたオンライン研修会を円滑に運営する。	・ 外部との連絡調整や対象学校や職員への告知等を行い、オンライン研修会を適切に運営する。	①②③	A		・ 来年度以降のオンライン研修会も今年度同様、広く周知し、係で連携して運営していく。
	学習指導	○ 一人一人の教育的ニーズに応じた個別の指導計画の作成に努める。	・ 県の統一様式を参考に、必要に応じて本校の個別の指導計画の様式を見直す。	①②③④⑩	B	A	・ 3つの資質能力を踏まえた目標設定等、記入の仕方については、各教科等の年間指導計画見直しと併せて検討を進める。
			・ 個別の指導計画作成マニュアルを活用することで、記入方法等について教員の共通理解を図る。	①②③④	A		・ 新様式におけるマニュアルを活用しながら、内容の改善に努める。
		○ 計画訪問にて、授業改善に努める。	・ 計画訪問の趣旨を踏まえ、学習指導案の様式を作成及び提示し、教員へ周知する。	①②③④⑩	A		・ 研究研修係と連携を図り、今年度作成した略案様式を基に授業研修を進める。また、計画訪問については、教務部と連携を図る。
	研究・研修	○ 新学習指導要領の観点を含めた授業づくりを全職員で行い、外部専門家の指導助言を受けて職員一人一人の学校研究に対するスキルアップを図る。	・ 「主体的・対話的で深い学び」や「ICT教材」の観点を学習指導計画に盛り込んでいき、授業実践をする。その後の反省は、同じ学部の職員から助言等を受け、今後の授業改善に努める。	①③	A	B	・ 職員へのアンケート、意識調査等はGoogleフォームを使つてのアンケートを積極的に活用し、研修のまとめにつなげられるようにする。
			・ 学校研究に関する説明会を定期的に職員全体で行う。その際は、身近にあるタブレット端末を使用していながら共通理解や知識を深めていけるようにする。	③	B		・ 今年度同様、夏季休業期間に研修をしたり、外部講師の講演会を開いたりすることで、職員の学校研修に対する共通理解や意識を高められるようにする。
	小児リハ	○ 医療と教育の連携・協働の取り組みを行う。	・ 小児リハの会によるセラピスト等、学校間事業の企画運営を行う。	⑫	B	B	・ 医療関係の研修会について、周知や参加の呼びかけを積極的に行っていく。
		○ 外部専門家を活用し、学校生活全般における支援の充実を図る。	・ セラピストからの助言をもとに、相談票や映像を提供することで指導の改善に役立てる。	⑫	B		・ 小児リハ研修会の更なる理解啓発を行い、相談者を増やせるようにする。
	文化活動推進	○ ナイスハートフェスティバルをはじめとする作品展関係では、関係する係や学部学年とスムーズに連携する。	・ 作品展の案内があったら、早目に相談しながら調整をして、管理職や図工美術係等と役割分担する。	①⑧	A	B	・ 運営がスムーズにできるように、引き続き管理職や事務局、役員間の連携をしていく。
		○ 文化的活動の作品展や活動に、できる範囲で積極的に参加する。	・ 高文連では、今後はZOOMでの交流が主になってくるので、機器の扱いに慣れるとともに、情報関係や管理職との連携をはかる。また、学校紹介動画やスライド、パネルづくりでは、とりまとめを早めに行いながら、情報機器に詳しい教	①②⑧	A		・ リモート会議や交流において、機器の扱いや、配線、動画編集などを係内で積極的に行い、活用慣れるようにする。
			・ どのような作品展があるのかできるだけ把握し、事前に作品をストックしておくように、各学年にお願いしておく。	①②⑧	B		・ 各学部・学年に丁寧に説明し、積極的に呼びかけすることによって出品する作品を早めに精選し、作品展に多くの質の高い作品を出品できるようにする。

令和4年度 県立鹿島特別支援学校 自己評価（校務分掌）

評価項目		具体的目標	具 体 的 方 策	重点目標との関連	評価		次年度への主な課題
生徒指導部	生徒指導	○ 児童生徒の気持ちの安定を図るとともに、緊急時には組織的・迅速に対応できるよう体制の充実を図る。	・ 訓練を通して全職員で緊急保護マニュアルを共有し、問題点の洗い出しや改善、搜索範囲や地図の見直しを行いながら円滑な搜索活動ができるよう努める。	⑩⑬	A	B	・ 訓練実施後の反省から搜索範囲の見直しを行い、ルート担当の変更などを行った。次年度は新搜索範囲で訓練を実施し、変更点も再確認していく。
		○ 校内の防犯に努め、不審者侵入時には、組織的に迅速な対応ができるようにする。	・ 見慣れない人がいることに気付くなど、「防犯」に対する職員の意識を高めるとともに、緊急時に対する児童生徒の心構えを高められるよう努める。 ・ さすまた設置場所の共通理解及び迅速な連絡手段のためのトランシーバーの利用、設置等について検討する。	⑩			・ 訓練実施後の反省から不審者対応マニュアル（フローチャート）の作成を行い、全職員へ周知した。次年度は、年度当初に全職員へ周知をし、マニュアルを生かした訓練を実施していく。
		○ 児童生徒の問題行動には、関係機関と連携を図り、迅速かつ適切な解決に当たる。	・ 「不登校」「非行」「性の問題」「いじめ」等の問題について、校内の報告体制を整え関係機関との連携を図りながら解決に当たるよう努める。	⑥⑬	B		・ 教育支援部と協力しながら外部機関を交えたケース会議を行った。次年度も教育支援部と連携を図りながら、児童生徒の問題解決に努める。
		○ いじめの未然防止、早期発見、再発防止に努める。	・ 月1回のいじめ防止対策会議通して、職員のかいじめに対する意識を高め、いじめの未然防止、早期発見・早期対応、再発防止に努める。	⑤⑥⑦	B		・ いじめ防止対策会議において、案件の確認といじめに関する未然防止や対応について資料による情報提供を行った。児童生徒の小さなトラブルに対して早めに気づくような働きかけや共通理解に努めていく。
		○ 児童生徒の実態を把握し、共通理解のもとに問題を解決できるよう努める。	・ 学級担任や養護教諭と連携しながら、児童生徒の長期欠席や問題行動の理由を把握し、ケースカンファレンス会議やケース会議を通して職員間の共通理解を図るとともに、原因の追求と改善に努める。	⑦⑩⑪	B		・ 11月分より長期欠席児童生徒について、情報（欠席理由、対応策）を一覧表にまとめ、学校全体の欠席者の情報を把握できるようにした。次年度も継続して行い、早期の対応や課題解決に努めていく。
		○ 長期休業中や休日などの過ごし方について意識の向上を図る	・ 児童生徒が休日を安全に過ごせるよう、学年集会及び日ごろの学級活動の中で啓発するとともに、生徒指導便り等で保護者と共通理解を図る。また必要に応じて巡回指導や家庭訪問等を行いながら、家庭での安全確保に努める。	⑪⑫⑬	B		・ 集会等で長期休業中の過ごし方について確認し、生徒指導だよりの配付により意識向上を図った。次年度も継続するとともに、学区内の巡回指導も検討していく。
	通学指導	○ バス内での児童生徒の諸状況に迅速に対応できるようにする。	・ 各号車担当職員が乗務員や各担任と連絡を密にとりながら、情報を共有し、迅速に対応できるよう努める。係長を中心として必要に応じて生徒指導係、保健部、教育支援部など他の分掌部とも連携を図る。	⑩⑬	A	A	・ 今年度同様、号車担当、乗務員、担任と情報を共有して支援を行っていく。また必要に応じて、生徒指導係、教育支援部、管理職と連携を図る。
		○ 安全に乗降できる場所を確保する。	・ バス停での児童生徒の受け渡しを円滑にできるよう、運転士や保護者からの情報をもとにし、適切な停車場を選定する。問題が生じているバス停については、現地調査等を迅速に行う。	⑩⑬	A		・ 工事等で道路状況が変わる場合がある時には、現地調査を迅速に行う。
		○ 安全で円滑な運行計画を企画立案する。	・ 保護者からの要望やバス車内での児童生徒の行動等について、通学指導委員会等で報告・検討し共有できる場を設ける。 ・ 運行会社との連携により、効率的な運行コースを検討する。	⑩⑬	A		・ 運行マニュアルの徹底やヒヤリハット事例の共有など各運行会社と情報共有を行い、安心安全な運行ができるようにする。
		○ スクールバス乗車中に災害等が発生した場合の避難場所を周知する。	・ 学区内の各市に設定した緊急避難場所について資料を配布し職員、家庭、行政と共通理解を計る。 ・ 5市（神栖市、鹿嶋市、行方市、潮来市、鉾田市）に緊急避難場所についての届け出を提出し、災害時に対応できるようにする。	⑬	B		・ SBの増車等に伴い、市町村と災害時の対応について検討していく。また、緊急時の対応に関するマニュアルを配付し、職員、家庭と共通理解を図れるようにする。

令和4年度 県立鹿島特別支援学校 自己評価（校務分掌）

評価項目		具体的目標	具 体 的 方 策	重点目標との関連	評価		次年度への主な課題
保健部	保健指導	○ 医療的ケア及びてんかん発作時の坐薬挿入やアレルギーについての課題検討をし安心安全な実施を図る。	・ 学校安全委員会を定期及び臨時に行い、対象者の現況や課題や保護者の要望やヒヤリハットの再発防止や校外への看護職員の同行や巡回指導医の意見の共有をしていく。 ・ 学期ごとケース会を行い、マニュアルや緊急時の対応や長期休業中の医療的ケアの様子について確認し、安全委員会で共有化していく。	⑫⑬⑭	A	B	・ 行事計画に沿って、看護職員の同行による安全なケアの実施をすることができた。次年度も引き続き、学校安全委員会やケース会議を通してケアに関する情報を共有化を図り、安全な実施に努める。
		○ てんかん発作者のバス乗車について通学指導部と連携し共通理解を図り、安全な乗車に努める。	・ てんかん発作者のバス乗車について学校安全委員会で話し合い、共通理解の上乗車について検討していく。 ・ スクールバス乗車規定について通学指導係と連携し、てんかん発作者のバス乗車について医師の指示の下、一貫した対応ができるように体制を整備を図る。	⑪⑫			・ 今年度は、年度途中でてんかんが判明した児童生徒がいたため、学校安全委員会で対応を協議し共通理解を図るとともに、安全なスクールの乗車に努めた。
		○ けがや病気、誤嚥などの緊急時に的確かつ迅速な対応をする。	・ マニュアルの配付、確認をし徹底を図る。教員の救命救急の研修会を計画実施し緊急時に備える。 ・ 傷病のケース別に小グループでのシミュレーション研修を行い、緊急時の対応について共通理解を図る。	⑪	B		・ 小グループでの緊急シミュレーションができなかったため、次年度は実施できるよう計画を立てていく。
		○ 児童生徒の健康な学校生活のために校医や保護者と話し合い共通理解をもつ場を設ける。	・ 学校保健委員会を開催し、保護者や学校の代表と校医を交えて、児童生徒の健康状況や新型コロナウイルス対応に関する対応等について話し合い、共通理解をもって課題解決していく。	⑪⑱	B		・ コロナ禍のため、保護者や校医とのやりとりを文書などで引き続き利用していく。学校保健委員会の開催の方法を検討していく必要がある。
	給食指導	○ 児童生徒が食や献立について興味をもつことができるようにする。	・ 給食目標や献立に合わせて給食室内、保健室横の壁面の掲示物を作成し、2か月に1回更新する。 ・ 児童生徒が食に興味関心をもてるような行事メニューや旬の食材を取り入れた献立を作成したり、献立や食材に関する紹介やクイズを取り入れた校内放送等を実施したりする。	⑫⑬	B	A	・ 給食目標や季節に合わせた給食室内、保健室横の壁面の掲示物を作成することができた。栄養教諭と連携し、季節や学校行事に合わせた献立を作成することができた。次年度も引き続き、児童生徒が食に興味をもつことができるように取り組む。
		○ 食事の楽しさや喜びを味わうとともに、栄養バランスを考えて食べる力を育てる。	・ 中学部・高等部の作業班が育てた作物を給食に取り入れる。	⑫⑬	A		・ 農業班やガーデニング班が育てた野菜を献立に取り入れることができた。次年度も、取り入れる回数を増やしていく。
		○ 栄養バランスの取れた食事や安全な食事の摂り方について、職員や保護者に伝達する。	・ 献立や家庭できるレシピ等、食に対する情報を給食だよりを発行し保護者に伝えていく。 ・ 食物アレルギーへの対応や安全な食事指導についての研修を行う。 ・ 学校給食委員会で、献立や注意が必要な食材についての情報交換や意見交換等を行う。また、注意を要する食材について献立表に記載し、教職員にも伝達していく。	⑫⑬	A		・ 給食だよりや献立を通じて保護者に家庭でも取り入れられるレシピ等を伝えることができた。学校給食委員会で出た情報をポータルサイト等を通じて教職員に伝達することができた。近年は親子給食を実施できていないため、実施できるよう検討していく必要がある。
進路指導部	進路指導	○ 障害者雇用可能な現場実習先及びデュアルシステム型実習先の開拓を進める。	・ 本校の進路指導マニュアルや県のパンフレットの配布に加え、学校紹介動画をタブレット端末で提示して、本校の特徴やキャリア教育、障害者雇用の理解啓発を行い、現場実習先の確保とデュアルシステム型実習の協力先の拡充を図る。	④⑰	B	B	・ 作業学習の様子の動画をタブレット端末で提示することで、障害者を雇ったことのない企業への理解促進へとつながった。次年度は更に情報提供を行う事業所の数を増やせるよう努める。
		○ 進路研修などの職員研修の充実を図る。	・ 本校のキャリア教育についての進路指導マニュアルをさらに精査して教員へ周知する。また、進路指導説明会や施設見学等の研修の場を設定し、障害者の福祉や就労等に関しての見解を広める。	④⑤⑪⑰	B		・ 職員会議後の時間を利用して職員全体の進路指導について研修を行った。次年度は、進路指導の研修として時間をとり、職員の理解が深められるようにする。
		○ 保護者や教職員への情報発信の強化をする。	・ 学校ホームページを利用し進路関係のお知らせを月1回投稿したり、保護者説明会や福祉事業所合同説明会を実施する。また、パンフレットスタンドを更に充実させ、活用し最新の福祉施設情報や障害者雇用の情報、障害サービスに関する理解啓発を行う。	④⑳	B		・ ホームページの掲載内容の見直し・検討が必要である。進路に関する情報提供が更に充実できるよう福祉施設等のパンフレット置き場の拡充を図る予定である。
		○ 卒業生の追指導を強化する。（卒業後3年間）	・ 障害者就業・生活支援センターやハローワークとの情報の共有及び問題行動等への対応の連携を図る。過去3年間の卒業生に関しては、定期的に一般事業所や福祉施設に訪問して様子を聞くようにする。	⑥⑪	A		・ 関係機関とは連携して、在校生・卒業生ともに対応することができている。福祉施設合同説明会は、保護者への情報提供や生徒の進路学習に重要であり、今後も継続していく。
		○ 同窓会活動の活発化を図る。	・ 同窓会総会やレクリエーションの内容や場所、時期等のコロナ禍での工夫をする。また、往復はがきでのお知らせに加えホームページにも日程等を掲載する。	⑥㉑	A		・ 時間を分けて、大人数にはならないよう工夫するなど、感染症対策をとり開催することができた。はがきとホームページでの周知によりスムーズに開催することができた。

令和4年度 県立鹿島特別支援学校 自己評価（校務分掌）

評価項目		具体的目標	具 体 的 方 策	重点目標との関連	評価		次年度への主な課題
体育・スポーツ指導部	放課後活動	○生徒が主体的に取り組み将来の余暇活動に生かせるような活動をしていく。	・生徒が主体的に取り組める種目を提示し、選択して運動できるような環境を整える。	⑮	B	B	・生徒が主体的に活動できる内容を提示し、活動できた。活動回数も確保し活動することができた。
		○生徒の運動技能を向上させる指導法の研究	・安全面に留意し、担当者が連携しながら充実した活動ができるようにする。特に夏季の気温や湿度の測定を徹底し、生徒の安全確保に努める。	⑮	B		・ダンス、体づくり運動、レクリエーションなど様々な活動を通して体力の向上を図ることができた。
			・外部スポーツ大会に積極的に参加するよ促したり、活動の様子をポータルサイトやホームページを利用して積極的に発信していく。	⑨⑮	B		・ホームページを有効に利用し情報発信を進める。
	部活動	○部活動の活動を文書や学校ホームページ等で学期に一度紹介し、部活動への参加生徒を増やせるようにする。基本的な運動能力や体力の増加、サッカーの技術向上、チームで協力して試合ができるようにする。	・大会参加に向けて、複数のチームで参加するためにも、部員の確保ができるように「余暇活動だより」や保護者会等で部活動への理解を深め、啓発を行う。各種大会に際しては、部活動保護者会で年間計画を伝えけるとともに、保護者宛て文書や大会の趣旨等を口頭で説明し、長期休業中の練習、外部大会への参加の確認については、短冊等で再度知らせ大会に参加に協力してもらえるようにする。	⑨⑮	B	B	・放課後等デイサービスの利用の目途となることもあり、月の予定を早めにホームページに掲載し、情報提供を行った。生徒の実態に応じたグループ編成を行うことで一人一人に合った運動強度で活動することができた。次年度も保護者の情報提供を積極的に行い、理解と協力を得られるように努める。
		○運動技能を向上させる指導法や活動内容を研修する。	・部活動の練習内容について担当間で協議する時間を設け、共通理解を深め、質の高いトレーニングができるようにする。	⑨⑮	B		・年間の指導計画を立て、できるだけ月の目標に沿ったトレーニングができるようにしていく。
	スポーツ推進	○安全・安心な活動ができる環境を整える。	・感染症対策を行い、怪我のないように大会を運営する。	⑨⑩	B	B	・今年度は、多くの大会に参加することができた。また、感染症対策や安全に気を付けながら大会の運営をすることができた。
		○校内において、体育担当者や体育・スポーツ分掌部で連携を取り、円滑に準備や活動を進める。	・選手選考や競技の練習を計画通りに進め、大会を実施することができる。	⑨	B		・大会の前には、朝の会や帰りの会の前に競技の練習できるように時間を取ることができた。練習計画通りに実施した。
教育支援部	校内教育相談	○ケース会議や諸検査を円滑に実施することができるようにする。	・担当教員でケース会議の流れや検査器具の確認を行う。	①②③	B	B	・検査器具の管理や貸し出しは計画通りにできた。研修の実施に関して、コーディネーターの教員への負担が偏ってしまったため、次年度へは計画段階で仕事内容の割振りを係内で決めておく必要がある。また、ケース会議については、学年や学部の中で抱え込まないよう、周知文書の見直し等を図り、会議をスムーズに開けるようにしていく必要がある。
		○個別の教育支援計画の作成・活用に関する校内の周知、活用を図る。	・個別の教育支援計画作成の手引き改定をし、会議等で周知する。	②③	B		・会議等で手引きの周知をすることはできたが、個別の教育支援計画の元データに不具合があった。次年度に向けて、複数の教員でデータ入力の不具合がないかを確認する必要がある。
	交流及び共同学習	○本校のセンター的機能及び特別支援教育に関する理解を深めたり、各関係機関との関係づくりを進めたりする。	・地域の学校や団体と連携をとりながら、居住地校交流及び学校間交流、地域交流に関する計画を立てる。	⑮	B	B	・地域の小中学校や近隣住民と連絡を取り、感染症対策を行いながら、直接交流をすることができた。居住地校交流と学校間交流の中で計画の立て方が異なる部分があり、分かりにくい部分もあったので、進め方の手順を検討をする必要がある。
地域支援センター	地域支援センター	○鹿行地域の特別支援教育のセンター的役割の推進を図り、相談依頼元の園・学校・教育委員会等のニーズに応じた支援を行う。	・相談依頼元の園・学校・教育委員会等のニーズに応じて、幼児・児童・生徒の実態把握を行い、環境調整や合理的配慮のための積極的な情報提供を行う。	⑮⑰	A	B	・各小中学校、高等学校、教育委員会からの依頼を受け巡回相談や学校見学、研修会などを実施することができた。巡回相談では、知的に遅れのある児童生徒だけでなく発達障害の児童生徒の相談にも係わっていく必要がある。
		○各学校及び関係機関と情報交換の機会を設ける等、様々な機会を通して連携を深める。	・各小中学校のコーディネーターと日頃より連携を図り、情報交換等を行う。また、校内外の幼児・児童・生徒のニーズに応じて関係機関との連携を図る。	⑮	B		・各小中学校のコーディネーターとグループチャットを利用し情報提供を行ったが、更に連携を深めている必要がある。

令和4年度 県立鹿島特別支援学校 自己評価（校務分掌）

評価項目		具体的目標	具 体 的 方 策	重点目標との関連	評価		次年度への主な課題
渉外部	総務	○ 活発なPTA活動の推進に努める。	・ 定期的な運営委員会の開催等、役員・管理職と連携を取りながら行うようにする。 ・ 必要に応じてオンライン形式を取り入れる。	⑭	B	B	・ 新型コロナウイルス感染症対策を考慮した研修会等を企画運営できるように進めていく。
		○ 各会議において円滑に議事が進められるようにする。	・ PTA活動への積極的な参加を促す。	⑭			・ 会議を円滑に進められるよう管理職や担当教員と事前打ち合わせを計画的に行う。
		○ 知P連、特P連の研修会への参加を促す。	・ 速やかに会員に知P連、特P連の研修会のお知らせをする。	⑭	B	B	・ PTA会長と顧問のみだったため、PTA会長と相談しながら本部役員の参加を促していく。
		○ 委員会、各支部などの活動が円滑に行えるように支援する。	・ 計画がスムーズに行えるよう、委員会、各支部等の活動の進み具合をチェックし担当教員や役員との連絡を密にする。	⑭	B		委員会や各支部同士の情報共有ができるようにしていきたい。
	PTA支部	○ 各支部の活動が計画的に行えるように支援をする。	・ 各支部の活動が円滑に行えるよう、保護者との連携を密にし、各支部会の補助を行う。個別のファイルを作成し配付がスムーズに行えるようにする。 ・ 反省や改善を行い、活動の見直しをする。	⑭	B	B	・ 各支部活動のお知らせや報告が素早く円滑に行えるように保護者支部役員の補助を行った。お知らせ文のデータの受け渡しがスムーズに行えるよう連絡・連携を図っていく。
	ハートフリー	○ ハートフリーネットワーク会議の運営と、連絡会だよりの作成・配付を円滑に行う。	・ 各支部の活動が円滑に行えるよう保護者との連携を密にし、各支部会の補助を行い、個別のファイルを作成・利用するなどして文書の起案や配付がスムーズに行えるようにする。 ・ 保護者からの願いや要望を開き、オンラインを活用する等の方策を考え、保護者と市役所をつなぐパイプ役になれるようにする。	⑭	B	B	・ 保護者からの願いや要望を開き、あらかじめ各市担当者に伝えておくことで、限られた時間の中で円滑にオンライン形式で各支部の会議を行うことができた。次年度も、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、今年と同じようなオンライン形式での実施か対面での実施か検討していく。
	学年委員会	○ 保護者主催の茶話会について企画・運営をサポートし、保護者の悩み解消や保護者同士の親睦の場となるよう支援する。	・ スムーズな委員会が開催できるようにするとともに、茶話会の実施形態や議題の検討などをサポートし、保護者同士の親睦や交流が図れる場となるようにする。 ・ 配布文書やメール等を行い、茶話会開催の周知を行う。	⑭⑳	A	B	・ 感染状況を考慮した実施形態や流れ等を再度検討する。アンケート用紙や反省用紙を作成し、今後茶話会を行う際は続けて使えるようにする。
		○ 仕事内容を明文化し、皆に分かりやすいように内容を整理する。	・ 仕事内容を整理して明文化することにより、誰もが参加しやすい活動につなげる。	⑭	C		・ 新たな活動のマニュアルの整備を進める必要がある。特に担当やその役割などを整理していく。
	研修委員会	○ PTA会員の教養を高め、相互の親睦及び福利厚生を図るとともに、オンライン等を併用しながら進路などに関する情報提供と理解啓発を図る。	・ 委員会開催時に会員間でスムーズに話し合いを行うことができるようにする。	⑭	B	B	・ 次年度も資料の他にも、過去のデータやウェブサイト等を活用して説明できるようにしていく。
			・ 保護者のニーズや感染症の状況に応じた教育講演会や研修視察会の計画を立案し、実施する。	⑭	A		・ 次年度も感染状況を考慮した研修視察と教育講演会が実施をすることができるよう進めていく。
			・ 上記内容を実現するための、参加しやすい企画や開催の仕方の検討をする。	⑭⑳	B		・ 次年度も、保護者の方に参加しやすい日時を開き、調整していく。
	広報委員会	○ 保護者を主体とし、広報誌を作成する。	・ 今までの広報誌を参考にして、意見交換を行い、内容やレイアウトの検討をする。	⑭⑳	B	B	・ コロナ禍の中、実施できた行事が増えたことにより、掲載記事が増えたため、ページ数を増やした。（6p→8p）
			・ 広報委員会開催の日程を早めに決め、連絡・調整が余裕を持つてできるようにする。	⑭	A		・ 日程を早めに決めたことで、委員の保護者との連絡調整がスムーズに行うことができた。感染症が流行する時期の活動については状況に応じ期日の検討が必要である。
		○ 他校の広報誌や過去の広報誌を参考にした内容・レイアウトの検討を行い、充実した内容にする。	・ 他校から送られてきた広報誌や、過去の広報誌を準備して、それらを参考にし内容、レイアウトの検討を行う。	⑭⑳	B		・ 過去の広報誌を参考に、内容やレイアウトの検討ができ、活動を充実させることができた。次年度は、他校の広報誌を年度当初に見るなどして参考にしていく。

※評価基準 A：よい（達成できた）、B：ほぼよい（ある程度達成できた）、C：やや不十分（一部改善の余地がある）、D：不十分（改善が必要である）

令和4年度 県立鹿島特別支援学校 自己評価（学部）

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	次年度への主な課題
小学部	○ 児童一人一人のよさを大切にし、基礎的・基本的な知識、技能を習得するための指導の充実に努める。	・ 実態チェック表や諸検査を活用することで障害や発達の状態を的確に把握し、児童一人一人のよさを称賛して伸ばしながら、主体的に学習に取り組むための指導の充実に努める。 ・ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善や児童の実態に応じた効果的なICT機器の活用にも努める。	①②③⑪	B	・ 実態把握したことを活用し、より効果的なグループングができるように工夫していく。 ・ ICT機器の活用については、ミニ研修を実施し、教師のレベルアップを図った。今後も研修を継続し、積極的に授業に取り入れていく。
	○ 道徳教育や体験的な活動を通して、豊かな心の育成に努める。	・ 心の教育を重視し道徳科の授業の工夫改善に努め、集団の生活を通して人とのかかわる力の基礎（特に、自分らしいあいさつの実践と気持ちの表出）を養う。 ・ 体験的な学習の意義と内容を理解し、キャリア教育の視点を取り入れた指導の実践に努める。	④⑤⑥⑦	A	・ 学校行事や校外学習など、体験的な学習の実施に当たっては、事前・事後学習を十分に行うことでより充実した体験を実施することができた。今後も感染症対策を十分に行いながら、系統的に体験的な活動を取り入れていく。
	○ 安全で安心な学校生活を送るために学習環境を整備し、健やかな体を育む活動の充実に努める。	・ 教室や廊下等の整理整頓や安全点検を行ったり、感染症対策の徹底を図ったりして、安全安心な環境で学習ができるように努める。 ・ 朝のトレーニングや体育の授業、給食指導、手洗い指導等を通して児童一人一人の体力向上と健康の保持増進を図る。	⑩⑫⑬⑭	B	・ 朝のトレーニングや体育の授業では、学年の実態に応じて場所や内容を工夫して行ってきたが、感染症対策や校内の工事などにより、活動の場が制限されたため、十分な運動量の確保は難しかった。今後も実施形態などを改善しながら運動量の確保に努めていく。
	○ 保護者及び関係機関との連携を積極的に図り、共通理解に基づく指導の充実に努める。	・ 毎日の連絡帳や個別面談等を通して学校の様子を伝えたり、保護者の願いや思いを受け止めたりしながら積極的に連携を図り、児童の成長発達を支援していく。 ・ 必要に応じて医療機関や地域の関係機関などとの連携を図り、一人一人に応じた支援を行う。	⑬⑭⑮	A	・ 連絡帳や学習予定表、個別面談など様々な方法で保護者と共通理解を図ることができた。また、必要に応じて、関係機関とケース会議を実施し、支援の方向性などについて検討することができた。今後も、保護者や関係機関と連携しながら児童の支援に当たっていく。
中学部	○ 生徒一人一人の実態や教育的ニーズを的確に把握し、個性やよさを大切にした指導や主体的・対話的で深い学びに向けたICT危機を活用した授業の充実に努める。	・ 個別の指導計画や年間指導計画を活用し、各教科の指導内容、方法の工夫と系統立てた授業実践を行う。 ・ 特性等に応じたICT機器の活用についての研修や研究授業、講義を通し、主体的・対話的で深い学びの視点で考える授業づくりをする。	①②③	A	・ ICT機器の活用については、中学部全教室への電子黒板の配置、及びタブレット端末の一人一台配置を個々に任意の端末を割り当てたことにより、より身近に置いて活用することができ、主体的な学びにつながった。次年度はより個々に応じた活用ができる方法を模索していく。
	○ 安全・安心な学習環境の整備と健康・体力の維持増進、道徳教育の充実に努める。	・ 新リース校舎の必要物品・設備等の点検・補充を進め、常に生徒にとって安全な学習環境を整える。 ・ 基本的な生活習慣を整えることで生活の安定を図り、心の安定につなげるとともに、意思の伝達表現ができる場面を設定し、安心して教師とコミュニケーションを図れる環境を整える。 ・ 保健体育や各種スポーツ行事を通して、健康な体づくりに取り組む。	⑥⑦⑨⑩⑪	B	・ 校内の設備工事等の関係で、活動場所が限られることが多かったが、内容を工夫することで運動量の確保に努めた。新リース校舎の環境整備は、順次の備品納品になったため、その都度の保管場所の変更や整理整頓が必要であった。年度末までに一定の環境を整えることができた。
	○ キャリア教育の視点を踏まえた自立と社会参加を目指す進路学習の充実に努める。	・ 職業・家庭、作業学習、生活単元学習、総合的な学習の時間等を通して、自立に向けた知識・技能・関心・態度の育成に努めると共に、主体的な取り組みを引き出す。 「挨拶、返事、言葉遣い、姿勢」を念頭に基本的な生活態度を指導することで、高等部進学や将来の進路選択につながるキャリア教育を推進する。	④⑤⑥	B	・ 社会見学、社会体験、職場体験と感染対策を講じながらすべて実施することができ、系統性をもった学習を展開することができた。また、ワークスデイに加え、高等部の校内実習の見学や作業学習の体験を充実させることで、高等部への見通しをもち、指導に当たることができた。今後も高等部との連携を図った活動を取り入れていきたい。
	○ 職員間での密な情報交換と共通理解を徹底するとともに、地域社会とのつながりを意識した学習成果の発表や交流及び共同学習に取り組む。	・ 生徒の状態や課題などの情報を共有し目標を明確にして、職員間の共通理解のもと支援にあたり、より個々のニーズに合った学習を進める。 連絡帳、学年だより、学年懇談会、個別面談等を通して保護者と情報を共有する。 学校間交流や地域の方々との交流を通して、相互理解を図る。	⑬⑭⑮	A	・ 学部会において、生徒情報の共有を徹底した。また学年、学部での連絡・相談・報告を徹底するように学部会の度に呼びかけた。次年度は更により迅速なケース会議の実施や、対応策の検討を教育支援部等と連携して行っていきたい。

令和４年度 県立鹿島特別支援学校 自己評価（学部）

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価		次年度への主な課題
高等部	○ 学年・学級や各類型（コース）で生徒一人一人のよさや教育的ニーズを踏まえた主体的な学習や活動を行い、個々の能力や特性に応じた知識・技能及び態度が身に付くようにする。	・ 生徒の的確な実態把握をもとに、各教科領域の年間指導計画、個別の教育支援計画・指導計画の３つを関連づけて計画し、RPDCAサイクルに基づいた指導・支援と評価・改善を実施する。 ・ 発達段階や特性に応じた学習形態や学習グループの編制（類型化）をし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。	①②③	B		・ 類型チーフ会や類型会を通じて、生徒に実態に応じた学習形態や学習グループの編成を行った。RPDCAサイクルに基づいた指導・支援と評価・改善を実施することができた。今後もICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めていく。
	○ キャリア教育及び進路指導の充実を目指し、生徒一人一人のよさや教育的ニーズに合わせた進路先の確保と移行支援に努める。	・ 職業、作業学習、校内実習、デュアルシステム型現場実習、現場実習等について系統的・段階的に実践するとともに、キャリア教育の指導内容の精選を図る。 ・ 関係諸機関とのネットワークづくりを積極的に進める。	④			・ 新型コロナウイルス感染症の影響で打ち合わせや実習が延期となるケースがあったが、実施することができた。感染症対策を講じながら、福祉事業所合同説明会を実施することができた。更なる進路学習の充実を目指したい。
	○ 健康な身体と豊かな情操を培い、根気強く、生き生きと心豊かに生活する力を育成する。	・ 一人一人に応じた体力づくり（朝のトレーニング）の実践と、安全で安心な環境整備と感染症対策の徹底を図る。 ・ 道徳の実践力が高められる学年・学級経営と、部活動や課外活動の推進・充実を図る。	⑩⑪⑫	B		・ 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で特体連体育大会は各校での実施となった。学校近隣の施設を利用して、保護者参観のもと実施することができた。道徳については、若手研修の授業研などを通して、研修を進めることができた。今後も実践事例の蓄積を図っていく。
	○ 家庭・地域社会・関係機関との連携、交流及び共同学習を推進し、地域とともに歩み、本校の教育活動や内容の理解推進と積極的な情報発信に努める。	・ 保護者や地域社会への適切、迅速な対応と説明責任を果たすために積極的な情報発信を行う。 ・ 学校間での交流を実施し、豊かな人間形成の育成を図る。	⑬⑭⑮	B		・ 学部の学習活動や学年や学校の行事の紹介をブログを通して、積極的に情報発信を行ってきた。学校間交流では、出前授業を行ったり、次年度交流校を増やす提案が出たりしたので、コロナ対策を講じながら更なる本校の教育活動の理解推進に努めていく。
保健室	○ 児童生徒が心身共に安心できる保健室づくりに努める。	・ 保健室利用について全体に周知し、特に発熱時の対応をはじめとした感染症予防の観点からの保健室の利用体制を整備する。 ・ 保健室の環境を整え改善する。 ・ 児童生徒へ明るいあいさつや声かけを心掛ける。	⑩⑪	A		・ 発熱対応のため、ポータルサイトや職員会議、校内放送を随時利用することで、保健室の利用体制を整備することができた。 ・ 養護教諭複数配置の利点を活かし、スムーズな児童生徒の来室対応を行うことができた。
	○ 傷病時の的確な対応に努める。	・ 保健調査票や健康診断結果等から、各児童生徒の疾患や健康状態状況を把握する。 ・ 緊急時の対応について周知を図り、必要に応じて研修を行う。 てんかん、心臓疾患、食物アレルギー、医療的ケア等特に配慮を必要とする児童生徒については、日頃から関係職員等と共通理解を図る。	⑫⑬			・ 特に緊急時のシミュレーション研修の機会を設けることができなかったため、本校の実態に合わせた実施形態を計画し、次年度は定期的な実施を目指す。
	○ 感染症の早期発見及び流行拡大防止に努める。	・ 健康観察を徹底する。 ・ 新型コロナウイルス感染症対策を継続し、校内マニュアルの継続的な見直しを図る。 ・ 基本的な生活習慣や感染症基本予防（手洗い、消毒、マスク、身体的距離等）について、保健だよりや保健指導、掲示物を通して啓発していく。	⑩⑪⑫	A	B	・ 主に新型コロナウイルス感染症に対する感染防止策を継続して実施した。
	○ 健康問題の解決に向けて、教職員や保護者、学校三師と連携を図る。	・ 保健だより、健康クラブたよりの発行や学校保健委員会を活用する。 ・ 学校歯科医、担任と連携し、歯科口腔衛生の向上のための保健指導を行う。 ・ 健康クラブを活用し、栄養教諭と協力して肥満傾向児童生徒の体重測定の実施及び運動の機会確保を図る。 ・ 学校三師に定期的に相談をする。	⑪⑰	B		・ 学校保健委員会の実施について、委員を集めての会議形式の実施ができていないため、次年度は実施形態の工夫を図る必要がある。
事務室	○ 効果的かつ計画的に予算の執行を行う。	・ 教授用購入品を集約し、計画的に執行することで予算の削減を図る。 ・ ICT機器の積極的な導入に努め、競争入札・オープンカウンター・見積合わせ等を実施し業者間の競争を高め、コスト削減を図る。	③	B	B	・ 教授用購入品について、教務部と連携して計画的に執行を行った。 ・ 電子黒板等のICT機器を競争入札等を活用し導入した。
	○ 教育環境の整備を行う。	・ 老朽化した施設設備の更新に計画的に取り組む。 ・ 工事及び修繕に際しては安全への配慮を徹底し、工期内に完成させる。 ・ 安全な学校を目指し、不良箇所危険箇所の改善に取り組む。	⑩	B		・ 体育館空調設備工事、グラウンド移設工事、トイレ改修工事について、安全に配慮し執行した。

※評価基準 A：よい（達成できた）、B：ほぼよい（ある程度達成できた）、C：やや不十分（一部改善の余地がある）、D：不十分（改善が必要である）